

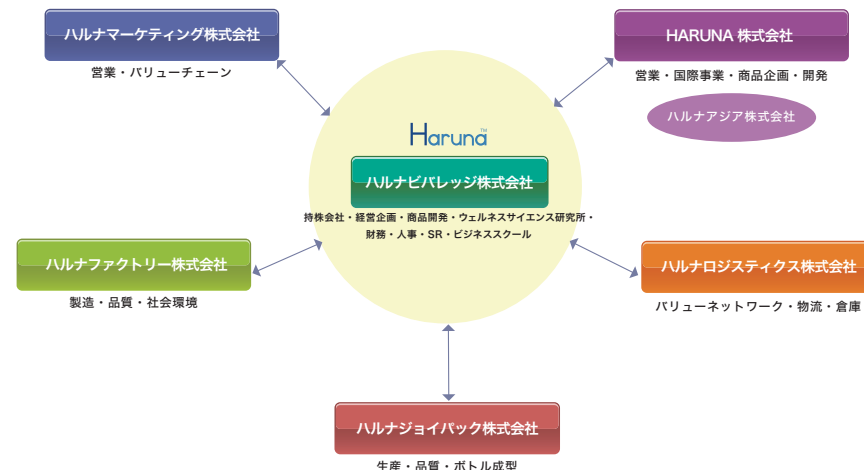
ハルナビバレッジ株式会社

Haruna Beverage Inc.

持株会社・経営企画・商品開発・ウェルネスサイエンス研究所・財務・人事・SR・ビジネススクール

創 業	1996 年 2 月 23 日		
所 在 地	●本 社	〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F TEL.03-3275-0191 (代) FAX.03-3275-0192	
	●群馬本社	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL.027-387-0101 (代) FAX.027-387-0102	
	●商品開発	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL.027-384-4747 FAX.027-310-0070	
	●ウェルネスサイエンス研究所	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL.027-372-1230 FAX.027-372-1255	
資 本 金 4 億2090 万円 (発行済株式数8718 株)		連結売上高 202 億円 (2015 年3 月末)	
グループ社員総数 410 名 (2015 年 3 月末)			
役 員	代表取締役会長 (経営最高責任者 CEO・未来構想戦略)		青木 清志
	代表取締役社長 (経営執行責任者 COO・経営戦略・R&D・管理)		青木 麻生
	常務取締役 (経営計画・改革・広報・情報)		栗原 健一
	取締役 (生産活動)		中澤 幹彦
	取締役【非常勤】 (経営全般)		小出 信介
	取締役【社外】 (モノづくり戦略)		須齋 嵩
	取締役【社外】 (顧客・市場づくり戦略)		岡 俊明
	監査役 (財務監査)		瀧 良昭
	最高顧問 (経営全般)		有田 喜一
	執行役員 (R&D)		邑上 豊隆

グループ相関図



ハルナファクトリー株式会社

Haruna Factory Inc.

製造・品質・社会環境

■創 業	2009 年 4 月 1 日		
■所 在 地	●本 社	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1 TEL.027-372-6911 (代) FAX.027-372-6912	
	●ハルナプラント	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1 TEL.027-372-5875 (代) FAX.027-310-0717	
	●タニガワプラント	〒 379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL.0278-62-1111 (代) FAX.0278-62-1144	
■資 本 金	4 億円	■売 上 高	36 億円
■役 員	代表取締役社長 (経営管理)	中澤 幹彦	
	常務取締役兼代表執行役員 (生産活動統括)	古市 直也	
	取締役	青木 清志	
	執行役員 (製造・環境)	小池 賢司	
	執行役員 (品質)	清水 秀憲	



ハルナマーケティング株式会社

Haruna Marketing Inc.

営業・バリューチェーン

■創 業	2013 年 4 月 1 日		
■所 在 地	●本 社	〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F TEL.03-3275-0191 (代) FAX.03-3275-0192	
	●購 買	〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1 TEL.027-372-6913 FAX.027-372-5877 〒 379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL.0278-62-1112 FAX.0278-62-1144	
■資 本 金	3 億 5000 万円	■売 上 高	182 億円
■役 員	代表取締役社長 (経営管理)	青木 麻生	
	常務取締役兼代表執行役員 (マーケティング戦略・執行)	山崎 敦也	
	執行役員 (販売統括・市場開発)	松下 護	



HARUNA 株式会社

Haruna Inc.

営業・国際事業・商品企画・開発

- 創 業 2008 年 4 月 1 日
- 所 在 地 ●東 京 本 社 〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F
TEL.03-3517-5745 (代) FAX.03-3517-5759
- 大 阪 支 社 〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 2-14-14 新大阪グランドビル 12 階 A
TEL.06-6151-3020 (代) FAX.06-6151-3021
- HARUNA Asia(Thailand) Co.,Ltd. United Center Building Room3004B
323 Silom Road,Bangrak,Bangkok10500 THAILAND
TEL.+ (66) 2635-5488 FAX.+ (66) 2635-5487
- 資 本 金 2 億円 ■売 上 高 15 億円
- 役 員 代表取締役社長 (経営管理) 青木 日出生
取締役 (海外戦略) 青木 麻生
取締役 (財務・資金・総務) 栗原 健一
執行役員 (販売統括・市場開発) 松井 健一

ハルナアジア 株式会社

HARUNA Asia(Thailand)Co.,Ltd.

- 所 在 地 ●本 社 United Center Building Room3004B
323 Silom Road,Bangrak,Bangkok10500 THAILAND
TEL.+ (66) 2635-5488 FAX.+ (66) 2635-5487
- 役 員 代表取締役社長 青木 日出生
取締役 中澤 幹彦
取締役兼執行役員 小川 裕久



ハルナロジステイクス 株式会社

Haruna Logistics Inc.

バリューネットワーク・物流・倉庫

- 創 業 2005 年 10 月 1 日
- 所 在 地 ●本 社 〒 370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場 3044-1
TEL.0279-25-8385 (代) FAX.0279-54-6115
- タニガワ事務所 〒 379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011
TEL.0278-62-1115 FAX.0278-62-1718
- 資 本 金 1 億円 ■売 上 高 18 億円
- 役 員 代表取締役社長 (経営管理) 青木 清志
常務取締役兼代表執行役員 (業務全般) 三原 修一
取締役 中澤 幹彦



ハルナジョイパック 株式会社

Haruna Joypack Inc.

生産・品質・ボトル成型

- 創 業 2013 年 4 月 1 日 (ハルナグループとして)
- 所 在 地 ●本 社 〒 640-0441 和歌山県海南市七山 711-1
TEL.073-486-0231 (代) FAX.073-486-0210
- 資 本 金 3 億円 ■売 上 高 6 億円
- 役 員 代表取締役社長 (経営管理) 坂上 寿
常務取締役兼代表執行役員 (業務全般) 小川 啓治
取締役 (経営戦略・人事) 中澤 幹彦
執行役員 (品質) 山本 宏
執行役員 (製造・環境) 浅野間 博文



～ 2014 年度を振り返って～

当事業年度における清涼飲料市場は、消費増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化及び、これに続く消費の低迷や全国的な夏場の天候不順により、業界全体の販売数量は前期比 4% 減となりました。

また、メーカー間の競争激化に伴い、日本たばこ産業社（JT）が飲料の製造・販売事業から撤退することを決断するなど、大手飲料メーカーの寡占化が進んでおります。

さらには、消費における生活者の価格志向と価値志向といった多様化がますます進行し、それに対応する商品開発のスピードとレベルアップが一層求められている状況です。

このような環境の下、前事業年度から継続し収益構造改革期である 14 年度においても様々な施策を実行しています。中期経営計画である「ハルナビジョン 2018」で掲げているグループ経営ビジョンである「独創性ある飲料プロデューサー」として、ステークホルダーの皆様から大いなる期待と満足を得られる企業グループを目指し、当事業年度は下記の取り組みを強化してまいりました。

(1) グループマーケティング力の強化

- ・利益創出・高付加価値商品のプライベートブランドならびに、ハルナブランドの企画開発にフォーカスし、顧客ターゲットを明確にした提案型マーケティングの強化。
- ・全国提携工場との連携による利益創出型生産販売のビジネスモデル再構築。

(2) 生産イノベーション・コスト競争力の強化

- ・自社 6 プラント生産性の向上。
- ・ハルナジョイパック自社成型ボトル稼働によるコスト競争力の強化。
- ・物流イノベーション（群馬タニガワ地区新倉庫稼働と和歌山地区倉庫・運送事業強化）。

(3) 海外飲料プロデュース、アジアマーケットの事業化

- ・グループの強みである飲料プロデュースノウハウ（商品企画開発、生産技術のトータル提案力）を活かし、アジア（タイ、香港）大手小売企業との共同開発商品の実現。

上記（1）につきましては、新規開発商品の販売等も寄与し、4 月から 7 月までは計画達成ペースで進捗しました。しかし、夏場の天候不順を引き金に主要顧客の主力飲料の販売不振、在庫過多から受注が大幅減速し、8 月から 11 月まで 4 ヶ月連続で計画を大幅に未達。それを第 4 四半期にリカバリーすべくマーケティング方針を一部転換し、ボリュームゾーンの低価格帯他社生産商品の品質とコスト改善による新規提案を強化、その結果として 52 アイテム、130 万ケースの新規受注の獲得に成功するも年間の粗利益目標には大幅未達となりました。

他方、大手小売企業のプライベートブランド商品で、高付加価値商品として高果汁スムージーの販売や全国提携先工場との生産・物流体制の見直しにより、利益創出型モデルにシフトが進んでおります。

上記(2)につきましては、自社 6 プラント合計の生産数量実績が 2572 万ケースと前期比 10 万ケース減、計画比 108 万ケース減の 95% と、上記（1）の受注減により生産数量も減少しています。し

かし、生産指標のライン効率は平均 92% 台と安定しており、また、省エネルギー対策や省人化によるコストダウンも徐々に効果が出てきております。

ハルナジョイパックの自社成型ボトルの稼働は、当初予定よりも遅れ、第 4 四半期からスタートし、生産スピードや歩留まりの改善を継続して、さらなる競争力の強化につなげてまいります。

物流ではハルナロジスティクスにて、タニガワ新倉庫の稼働開始と和歌山地区での物流体制の充実により効率化を進めております。

上記（3）につきましては、タイにおいて大手財閥企業グループ傘下の大手 C V S チェーンのプライベートブランドの共同開発を進めてきた結果、2 アイテムの乳性飲料を商品化。2015 年 2 月より、現地にて販売を開始いたしました。

今年度はリニューアルを含め、さらなる新商品の開発と香港大手流通企業とのタイアップなどにより、本格的な事業化を目指してまいります。

以上の結果、ハルナグループ連結ベースでの販売数量は 3481 万ケース（前期比 98%）、連結売上高 202 億円（前期比 97%）、営業利益 109 百万円（前期比 60%）、経常損失 65 百万円となりました。

当期損失の主な要因は、前述のとおり、夏場から第 3 四半期間での大幅な受注数量減少と電力料、都市ガス、LNG 費用等のエネルギーコストの大幅な増加となっております。

2015 年度も引き続き厳しい経営環境下ではありますが、ハルナグループの経営資源である新商品企画、開発提案などの市場を創造するマーケティング力、高品質で高い生産技術、突破力、真摯なものづくりに対する姿勢などの総合的な生産力、全国に跨るパートナー企業様とのシナジーによる顧客ニーズ対応力を駆使し、ステークホルダーの皆様のご期待に添えるよう努力を続けてまいります。今後とも皆様のご理解とご支援をどうか宜しくお願いします。



ハルナビバレッジ株式会社
代表取締役社長
青木 麻生